

事故速報

報告日：2024/12/27

事故の区分	小事故
事業者名	ガイド仲間でのダウンリバー
発生日時	2024 年 12 月 25 日 水曜日 12 時 30 分頃
プログラム (コース) 名	ガイド仲間でのプライベートダウンリバー
発生場所	山梨県桂川 通称サムライ の瀬の手前
事故発生時の 気象海況状況	晴れ 気温 9.6℃/12 時 (気象庁アメダスの大月観測所)
事故発生状況	ガイド仲間 6 名で桂川の通称アップー区間をダウンリバー。もともと低水位を承知でローー区間を下る予定だったが、想像以上に水位が低く、たまたま取水口のメンテナンスの影響で水位があったアップー区間をくだることになった。6 名中 1 名 (A) は最近この区間を下る。私を含め 2 名 (私と B) は 10 年以上前にくだったことがある。C はパドリングの経験値は高いがこの区間は初めて。D はパドリング歴は長いが最近リバーカヤックはそれほど漕いでいない。E は年齢若く、難易度の高い川の経験値は少ない。下る区間の中頃に両側の岸が迫ってくるゴルジュ状の地形になり、瀬の難易度は上がってきており、D と E はルート取りにズレが出始めていた。通称「プレサムライ」で D と E が沈。E はなんとかロールに成功、D は沈した際にパドルがなにかにヒットし右ブレードに近いシャフト部分が折れる。よってロールができず沈脱。
事故発生時の対応	パドルは D が折れたとわかった時点で手を離す。ボートを最初は確保していたが、流れが激しく手を離す。ただ私が D を確保した際には直ぐ側にボートはあったが人とボートを確保した状態だとエディに速やかに入れないと判断し、ボートは確保しなくて良いと伝える。よって、D は左岸のエディに入ることができたが、ボートは流され、「サムライ」に進入。ABC は同じ左岸のエディ、E がは対岸のエディに入ることができた。ボートが流されたので A はボートを追い川を下っていった。
事故後の対応	D のボートはなく、すぐ下流には「サムライ」がありそこを生身で泳いでいくことは危険。よって、左岸のエディはギリギリ崖を登れそうであったため、そこを登り道路にでることに決める。また、E もここまでの川の流れに精神的に追い込まれていたために、この場所で上がりたいと申し出があった。よって、残っているメンバーの中では一番ロープワークができる私と DE がそこで上陸することになった。BC はパドリング技術的には問題なく、A が一人でロストしたボートを追っていることから、DE と私と E のカヤックを岸に上げるのを確認してもらってから川を下り AB を追ってもらうことにした。その時点での時間は 13 時。ゴルジュ形状な河川でありながら市街地のすぐ横を流れているので、電波状況はよく通信はできることは確認できた。

	【上陸したメンバー】ロープを使用しながら安全を確保し、おおよそ標高差 100m くらいを休憩しながら人とカヤックを上げる。途中 DE には 15 時までの道路に出られなかった場合は、カヤックはそこにデポする旨を伝える。結果として 15 時過ぎに登山道に出る。そこにカヤックはデポし更に 30 分かけて道路に出る（15 時 30 分ころ）。 【艇を追ったメンバー】A は艇をなんとか確保し、エディで上陸させようとしていたときに BC が合流。そこで中村と連絡をとり、お互いの無事、カヤックを確保した旨を伝える。D のカヤックはそこから 20m 程度引き上げると道路に出せることがわかったので、道路に出した場所にデポしておくことにする。ABC はそこから予定していた車がデポしてあるゴール地点まで下ることにした。ゴール後は連絡を取り合いながら、それぞれの車の移動や D のカヤックの回収を行い、最終的に 15 時 30 分ころ中村と DE、と合流。 【その後】翌日中村と E のカヤックがデポしてある場所まで取りに行き、折れてしまったパドル以外は回収することができた。
再発防止策	【スタート前】水位が少なく場所の変更を検討した時点で、その川の難易度を正確に全員と共有する必要があった。全員が軽い気持ちで川下りを始めてしまったと思う。また、メンバーの誰かが桂川アップバーなら行かないと言うだろうと思っていたけど誰も言わず、なんとなくの流れで下ることになってしまった。 【スタート後】ラインがズレ始めている時点で修正をかけたり、しっかりとアドバイスをする必要があったと思う。そのズレが結果として DE の沈につながってしまった。また、全員が入れるエディが少なかったとはいえ、しっかりとストップアンドゴーをしながら集中するところとリラックスする時間を明確にしておいたほうが良かった。また今回下った区間を最近下った A と、私や D は初めて川を一緒にくだり、距離感やペースがいつもと異なっていることに対して意見を言うこともなくついて行ってしまっていた。下るにつれて難易度が上がることはわかっていたので、どこかのタイミングで修正をかけるべきだったと思う。 【沈脱後の対応】全員ができることをしっかりと行っていたので、その後の対応は良かったのだと思う。各自がスローロープやスリングカラビナを所持していたので、急斜面の登坂も安全に配慮することはできた。 【今後気をつけること】もともと下る予定だった区間は比較的今回のメンバーなら優しく、私も装備を十分に持っていかなかったのが、気が緩んでいたことは間違いない。区間が異なったり、河川を変更する場合はそこで再度全員で話し合う必要があると感じた。沈脱することは致し方なく、それが悪いわけではない。その後の対応をより良い方向に向かわせるためにも、スタート前の装備の確認や電波状況の把握。車の鍵はできるだけ身につけるもしくは車に隠していく。といったことは重要だと思う。

報告者：中村昭彦